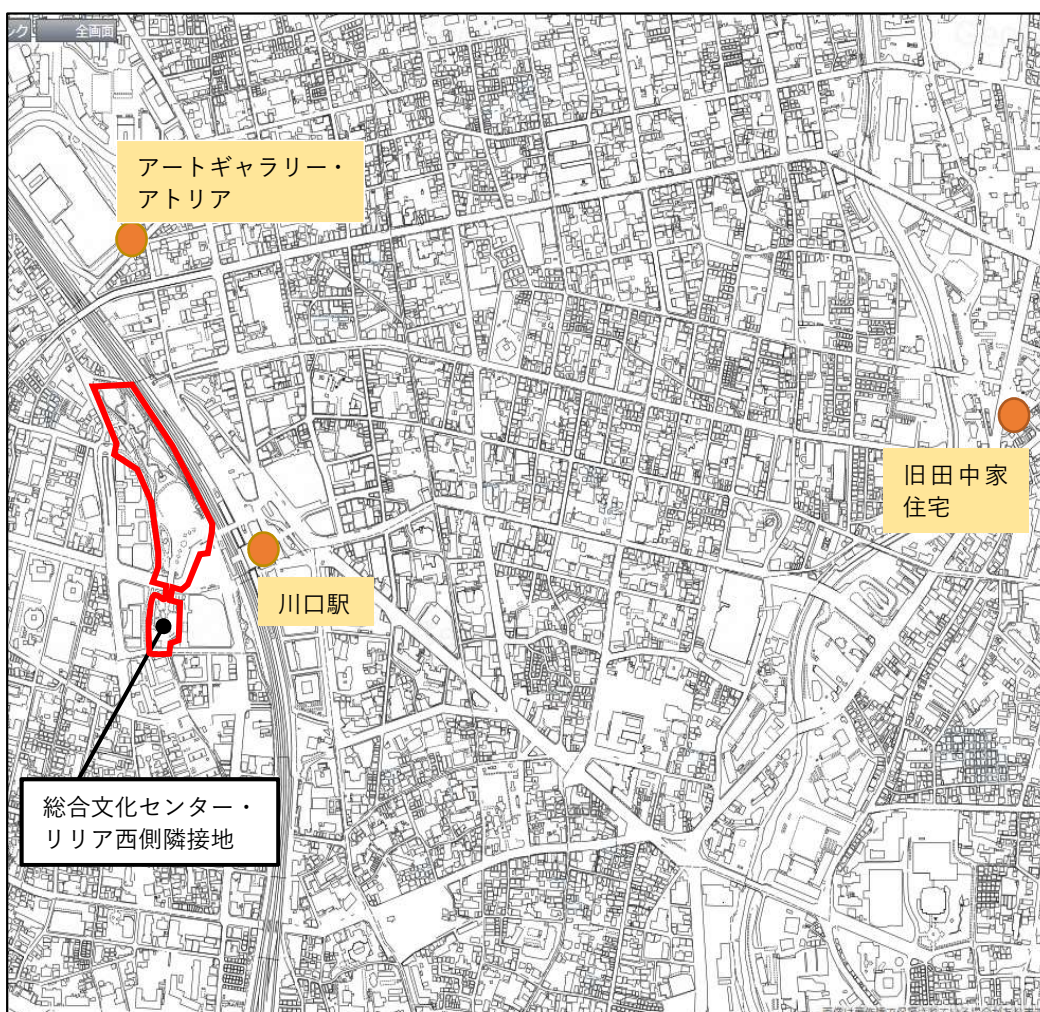


# 第3章 建設用地・施設形態

## 1.建設用地の検討

総合文化センター・リリア西側隣接地に美術館を建設します

建設用地については、川口駅周辺の市所有地を活用する方針を中心に、①整備の実現性とスケジュール、②審議会からの答申に盛り込まれている機能の充足、③中心市街地への貢献、④整備に係る財政負担の4項目を検討項目として建設用地の検討を重ねた結果、最短の整備スケジュールが見込めること、彫刻が多数設置された公園内の静かな環境で美術鑑賞に適していること、文化施設の集積を図ることでリリアとの相乗効果が期待できることなどから総合文化センター・リリア西側隣接地に美術館を建設いたします。



## 2.施設形態の検討

施設形態としては、美術館単体施設として建設するが、既存の川口駅西口地下公共駐車場を活用した複数の整備方法が考えられます。

建設費や工事期間、リリアや西公園との統一デザイン等、それぞれのメリット・デメリットを考慮し、施設形態の検討を進めます。

### 周辺環境

本施設と中心市街地である周辺環境との繋がりを重視します。周辺の街並みが、美術施設と調和したアーバンデザインへの展開を可能とすることが望ましいと考えます。周辺の環境を活かし、本施設が地域に根ざすことが大切です。また、建設工事が容易に行え、建物のインフラが整備しやすい事も重要です。

### スケジュール

総合文化センター・リリア大規模改修との一体整備ではあるが、独立の建物である為、短期間での着工が可能です。できる限りコンパクトなスケジュールを検討します。

### 将来性

長く市民に親しまれ、利用され続けていくためには、長期的な運営が持続可能で、周辺の環境とともに発展していく用地が望ましいと考えます。建設後の建物の管理、ランニングコスト低減や維持保全工事等の合理的な計画を考慮します。また、美術館が積極的に耐震等、防災安全対策に関して、長期的に周辺環境に寄与できることを考慮します。